

議決権行使レポート

証券コード 4613

会社名 関西ペイント

	賛成	反対	棄権
第1号議案 第159期剰余金処分の件	○		
第2号議案 取締役9名選任の件	○		
毛利 訓士 氏	○		
高原 茂季 氏	○		
寺岡 直人 氏	○		
西林 均 氏	○		
梶間 淳一 氏	○		
吉川 恵治 氏	○		
大森 紳一郎 氏	○		
安藤 知子 氏	○		
ジョン P.ダーキン 氏	○		
第3号議案 監査役1名選任の件	○		
第4号議案 監査役補欠者1名選任の件	○		

上記の推奨をした理由

第1号議案賛成：同社の158期における第3四半期連結累計期間における親会社に帰属する当期純利益が約176億円、そして159期における同上金額は約167億円であること、そして両期間で一株当たりの配当金額が変化していないことから159期における配当性向は158期の配当性向と概ね一致すると見なす。関西ペイントの158期の配当性向は24.9%であり、これはISSの剰余金処分の賛成ライン15%~100%の範囲に収まっている十分な配当性向であり、財務の健全性に悪影響を与える可能性も低いと考えたため賛成とする。

第2号議案：全氏賛成

関西ペイントの158期第3四半期連結累計期間における総資産額は約5863億円、159期は約6373億円であり、自己資本/総資産×100で導出される自己資本比率も前者が52.5%、46.5%であることから両期における自己資本はおおむね一致していることが出来る。そして、第1号議案に関する論点でも述べた通り、当期純利益も両期概ね一致していることから自己資本利益率も158期のものから大きく変化しないと考えることが出来る。158期における自己資本利益率は14.3%であり、154期以降の自己資本利益率も5%を超えて推移している。そしてこの数値はISSの取締役選任の賛成基準である資本金

産性の十分性（自己資本利益率が過去 5 期平均で 5%を上回っている）を満たしている。
また、女性取締役も 1 人いる上に各取締役の取締役会出席率は 95%以上であること、社外取の割合も 6 割以上であり、資料内で社外取の独立性が連結売上高における割合から確かめられることから ISS の評価基準を参考にして全取締役候補者に賛成票を投じたいと思う。

第 3 号議案：賛成

監査役候補者である中井 洋恵 氏は関西ペイントと取引関係のない弁護士事務所所属の社外の人物であり、公明正大な社内監査が期待できるため賛成票を投じたい。

第 4 号議案：賛成

監査役補欠者候補である黒田 愛 氏は中井氏同様関西ペイントと取引関係のない弁護士事務所所属の社外の人物であり、適正な社内監査が行える期待値は十分である。故に賛成票を投じる。

参考文献

ISS Proxy Voting Guidelines Benchmark Policy Recommendations

<https://www.kansai.co.jp/ir/securities/> 関西ペイント 2023 年 3 月期 第 3 四半期報告書
2022 年 3 月期 有価証券報告書